II-3 火山灰からできた赤土（ローム層）を観察してみよう

岩宿遺跡は、赤土（ローム層）の中から石器が発見されたことで、そこが岩宿（旧石器）時代の遺跡であることがわかりました。赤土は火山の噴火でできた地層で、そのように火山がさかんに噴火していたため人間は生活できないと、それまで考えられていました。岩宿の発見によってその常識がくつがえされるとともに、そのローム層の研究や火山灰の研究がさかんになっていきました。火山から一度の噴火で噴出された火山灰が、どの方向にどこまで降っているのか、あちこちの地層を現地で観察し、その火山灰の分析が行われて、ひとつひとつの火山灰がくわしく研究されています。近くに赤土（ローム層）の崖があったらよく観察してみましょう。

●浅間山の噴火のようす

（提供：浅間火山博物館）

火山が噴火すると、火口からたくさんの火山灰や軽石などが噴出する。日本列島上空ではいつも西からの風が吹いているため、東の方向へ降り積もることが多い。

●岩宿遺跡のローム層

岩宿遺跡では、約３メートルのローム層が確認されている。その多くは浅間山や榛名山、赤城山などの火山灰からできている。